

平成26年度内閣官房及び内閣法制局・内閣府本府調達改善計画の上半期自己評価結果について

計画に盛り込まれた主な事項	取り組み結果
<p>Ⅲ. 1. (1)価格交渉の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「随意契約における価格交渉の推進・検討チーム」による推進</li> <li>・外部専門家による価格交渉の推進</li> <li>・研修の実施</li> </ul> <p>→当初提示額から前年度以上の削減を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「随意契約における価格交渉の推進・検討チーム」による価格交渉を積極的に推進</li> <li>・調達アドバイザーやCIO補佐官の助言による見積額の精査・仕様のスリム化を実施</li> </ul> <p>→<b>当初提示額の7.5%を削減(前年度同期比4.3%増)</b></p>
<p>Ⅲ. 1. (2)システム関係経費の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CIO補佐官の助言により、仕様の適正化や経費内容の精査</li> <li>・国庫債務負担行為へ移行による複数年契約の導入</li> <li>・機器の賃貸借における再リースの活用</li> </ul> <p>→引き続き「システム関係」の調達における経費縮減</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様や機器構成の過大な部分の見直しを行うなど、仕様の適正化・スリム化の実現</li> <li>・国庫債務負担行為による複数年契約への移行や再リースの活用による経費の削減</li> </ul> <p>→<b>前回の調達額(比較可能なもの)から17.6%を削減</b></p>
<p>Ⅲ. 1. (3)オープンカウンタ方式の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンカウンタ方式を積極的に活用することにより多数の者に競争参加の機会を広げる</li> </ul> <p>→前年度(70件)以上の件数を実施し、競争性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多数の企業への競争参加機会を拡大し競争性が向上</li> </ul> <p>→<b>38件※のオープンカウンタ方式を実施</b>  <b>※前年度上半期17件、年間70件</b></p>
<p>Ⅲ. 1. (4)調達手法の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な調達情報の発信</li> <li>・市場価格調査の積極的な活用 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調達情報に関するメールマガジンの更なる拡大(約600名)</li> <li>・208件の市場価格調査を実施(前年度上半期186件)</li> </ul>
<p>Ⅳ. 2. (1)随意契約・一者応札</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随意契約の見直し</li> <li>・一者応札の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随契審査委員会における価格面の精査及び企画競争案件における価格の原則評価対象項目化</li> <li>・公告期間の延長、調達案件の事前公表、受注資格要件の緩和、仕様書の概要(1枚紙)の作成、過去成果物のURLの明示及び事後アンケート調査・回答分析等</li> <li>・入札説明書交付簿の単票化及び総合評価落札方式の一部において提案書と入札書の同時提出</li> </ul> <p>→<b>32件を改善(前年度継続案件の約25%)</b></p>
<p>Ⅳ. 2. (2)庁費類(汎用的な物品・役務)の調達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用的な消耗品や役務契約を対象に引き続き幹事官庁として共同調達を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度上半期を上回る<b>16件(15品目)</b>の共同調達を幹事官庁として実施し、参加官庁の事務負担を大幅に軽減</li> </ul>
<p>Ⅳ. 2. (3)主要経費における調達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊かつ専門性が高い2経費(宇宙関係経費、遺棄化学関係経費)</li> <li>・政府広報経費</li> <li>・防災関係経費</li> <li>・勲章製造等関係経費</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫債務負担行為の活用及び民間コンサルタント会社等の活用による価格交渉により経費を削減</li> <li>・契約相手方による過大請求等不正事案未然防止のための制度調査の実施及び職員への研修の実施</li> </ul> <p>→一定の年間広報枠の調達について、一般競争入札(総合評価落札方式)により経費を削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一者応札の改善に対応</li> <li>・契約相手方との価格交渉により経費を削減</li> </ul>
<p>Ⅳ. 3. その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調達手続の事前準備の充実・強化</li> <li>・事後検証の試行</li> <li>・調達に関する事項の情報共有</li> <li>・適正な物品管理等 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調達アドバイザーの視点による積算内訳の再精査・確認を実施</li> </ul> <p>→予定価格の積算方法や開札状況等の契約事務担当者間での情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在庫物品の供用による新規調達物品の縮減</li> </ul>
調達改善計画で記載していない事項	取り組み結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「成績評定」の評定実施後における入札参加要件の注意喚起の実施</li> <li>・男女共同参画等の調査等役務契約における男女共同参画関係の評価の実施 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「成績評定の結果、改善すべき部分が改善されていない場合、以後の入札に参加できない場合がある」旨明記し、応札者へ注意喚起</li> <li>・2案件について、審査項目に女性雇用率及び女性管理職の割合を評価の対象とした調達を実施</li> </ul>